あさちに虫の聲しげし

こころの花

つねを

八重にひとへに　さくら花
笑ふすがたや　春の夢
錦衣かざりて　山の端に
にほふ紅葉も　あきの彩
たけく優しく　うるはしき
大和ごころに　咲くはなは
あらしや霜の　折り〳〵に
あかき精神の　鍛錬はれて
君に捧ぐる　眞ごころの
まことの色香　あふれては
軈ては遠く　世界の
果てなき園に　かをるなり

説林

本邦古代保育法の一斑

下村三四吉

その第二は美稱であります。即ち美しいとか勇ましいとか立派なよい名をつけるのです。例へば木花開耶比賣とか倭建命とか申す類はこれであつて、歴史上には澤山例が見えて居ります。

次に第三のは、地名によれる名であります。その例を申しませう。垂仁天皇の時に見えてゐる狹穗彦と狹穗媛とは御兄弟でありますが、その狹穗

といふ名は御住居の地名をとられたのである。應神天皇の皇子宇治稚郎子と申し上げるのは、山城の宇治に御すまひになつて居られたからで、その御妹に宇治稚郎女と申す御方があります。前の例とよく似よつたつけ方である。また、仁賢天皇の皇女春日山田郎女の御名の春日と申すのも、御居所に因んだのです。その他、例は澤山ありますが一々は申しません。古代の歴史を御讀みになる時分に注意なされば、いくらもかゝる例を見付けられませう。

上に申しました名の附け方の三種類は、即ち本居宣長先生が重に古代の皇子方の御名の附け方について試みられた分類である。宣長先生は、右の三種類の外に、又稀には、御母の名に因れりと見ゆるものありとて、孝靈天皇の御子千々速比賣命は御母千々速眞若比賣、孝元天皇の御子建埴安彦命は御母埴安比賣、また繼体天皇の御子茨田大郎女は御母茨田連氏の女であるなどは、この例に當るべき由をいはれてゐる。

さて、ここに考へるべきことは、最後に擧げました種類は、もとより一種類をなすべき場合もありますが、また時によつては、その前に申した三種類の中の第三の即ち地名によれる名と申すのと區別し難い場合もあります、先に擧げた建埴安彦命といふ名は御母埴安比賣の名に取つたとありますが、その埴安比賣と申す埴安は即ち地名なのである。また茨田大郎女の例でも、母が茨田連氏の女であるからといふのですが、その茨田は居住地の地名からもとをとつたのです。さすれば、見方によつて、直にその生れ或は居住せられた地名

から建埴安彦命或は茨田大郎女の御名が取られたとも、または一旦地名が御母の名にとられ、それから間接にその御子につけられるやうになつたのであるとも、何れともいはれるわけであります從て、その直接であるか間接であるかといふ區別は、隨分むづかしい。かかる場合には、やはり前の地名によれる名と申す種類の中に入れて、但し御母の居住の地名にもとづいた名であると申したら、さしつかへはなからうと考へます。

（つゞく）

皿をふむ　　蕪村

鼠の音の

寒さかな

寄書

所感の一節

和田藏子

凡そ兒を育つるは、恰も園中の草木を培養するやうに、善く草木の性を知り、雜草を拔取り、曲れるは直し、よき花を開き、實を結ぶのを望む如く、何れの親も、出來得る限りの保育をなして、立身出世させ、幸福を得させたいと、誰も願望する所でありますが、兩親たる者、如何程注意して、其の子供を養育すればとて、乳母下婢たる者が、育兒の心得なき時は、折角の心盡しも、何の効もなき事となります。

當時二三の家庭にては、右の者を雇ふのに、其